

平成29年度 第3回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会議

日 時 平成29年7月27日(木) 18時30分～

場 所 湯梨浜町中央公民館泊分館 2階大会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 「小さな拠点推進事業」、「小さな拠点施設整備事業」の今後の取組みについて  
 住民説明会結果について・・・資料1、2  
 住民説明会のとりまとめ、今後の検討について

4. その他

5. 閉 会

## 湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会委員名簿

任期：平成28年8月10日～平成30年8月9日（2年間）

敬称略

	区分	役職	氏名	備考
1	産 鳥取県漁業協同組合 泊支所	組合員	朝日田 卓朗	
2	産 湯梨浜町商工会	副会長	石沼 友	副会長
3	産 鳥取中央農業協同組合 泊支所	泊支所金融共済課 兼 ふれあい推進課長	岩本 馨	
4	福 社会福祉法人 湯梨浜町社会福祉協議会	事務局長	石本 義之	
5	金 株式会社山陰合同銀行 泊出張所	出張所長	鷲野 星夫	
6	公募		田嶋 昭彦	
7	公募		遠藤 公章	会長
8	公募		渡邊 由佳	
9	公募		中原 政喜	
10	公募		石井 美佳代	
11	公募		坂田 克	

	湯梨浜町	副町長（地方創生担当）	山根 孝幸	
	湯梨浜町みらい創造室	室長	岩崎 正一郎	事務局
	湯梨浜町みらい創造室	町民協働担当主事	谷岡 雅也	事務局

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（宇谷区）記録		
日時	2017年7月2日(日)10:30～11:45		
場所	宇谷集会所1階会議室		
出席者	(委員3名) 遠藤公章、石本義之、坂田克 (敬称略) (住民) 24名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 岩崎室長、谷岡主事 計29名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・泊地域にも宅地造成があれば。という声を聞いたことがある。
- ・空き家に住みたいというニーズはないのか。空き家を放置しておくとう傷んでいく。活用してほしい。空き家があるなら住んでもらった方がよい。
- ・移住も子どものいる30～40代がよい。

2. 買い物について

- ・泊地区に店舗ができて、なかなか行かないと思う。行くなら羽合方面。昔は移動販売も来ていて便利だった。移動販売があれば安心して宇谷地区にも家を建てるかもしれない。いい部分がないと泊地域には住まないと思う。
- ・筒地区、小浜区よりは便利のよい地区だと思う。移動販売がよいと思う。スーパーと提携して週に何回かきてもらえたら。行政からの補助という形もあればよいと思う。
- ・移動サービス（店舗まで乗せていく）もよい。来るなら地区の中の方まで入ってきてもらいたい。店舗設置だと車移動となるので、羽合方面に行く。移動販売で店舗を拠点として週2、3回来てもらう方がよいと思う。
- ・買い物は、行って見て手に取って選ぶ楽しみも必要だと思う。
- ・他地域では道の駅を拠点としている事例があるが、拠点（固定店舗）を継続していくのは難しいので、移動販売（御用聞き、見守りなども）がよいと思う。運営組織が課題であり、通常であればNPO法人を立ち上げる、商工会などの力を借りるなどになると思う。移動販売は地区内で数カ所きてほしい。民業との調整も必要だと思う。
- ・宇谷区に店がなくて不便を感じている。一人暮らしになると困る。移動販売が週1回でもきてもらえればと思っている。今は子ども世帯に買い物を頼んでいる。いつも吉田医院から松屋へ寄って帰っている。

3. 拠点の場所について

- ・利便性では、候補1（泊港内）がよいと思う。
- ・建物よりドローン基地の運用などへ投資をしてはどうか。（物流の変化が今後起きると思う。）

## 4. その他

- ・協議会のテーマである「人口を増やす」ということだが、人口は減る一方（宇谷区でも年に1人生まれるかどうかという状況）なので疑問がある。
- ・泊地域の小さな拠点を考える際に、宇谷区の位置は微妙な位置だと思う。泊地区に拠点ができて距離が離れているので、車で移動するなら羽合方面へ行ってしまう。
- ・小学校、こども園がなくなると地域が寂れて元気がなくなると思う。わかばこども園への羽合地域などからの入園をもっとPRしてほしい。
- ・コミュニティ機能は今の各地区のサロンなどがあり、機能していると思う。拠点にコミュニティ機能を設けて人を集めるのではなく、現状の体制を強化した方がよいと思う。
- ・普段は、吉田医院へ自分の運転で通院している。
- ・ハード面もあるが、ソフト面（誰がどう関わるか）が重要だと思う。
- ・働く場所がないので、子ども世代が帰ってこない。若い世代は目が羽合方面を向いている。バイパスもできて、泊地域に寄る必要がなくなっている。10年後が心配である。老後の施設を自分達で作るかという話も会話に出てくる。ゴミ出し、分別も高齢者には難しいこともあると思う。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（筒地区）記録		
日時	2017年7月3日(月)19:30～20:35		
場所	筒地公民館		
出席者	(委員3名) 遠藤公章、石沼友、石井美佳代 (敬称略) (住民) 8名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計14名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・石脇～筒地の造成地（田を埋めた所）に建物が建てられないか。
- ・インターチェンジ、駅、海があるから、住むには魅力的だと思う。退職する世代にPRしてはどうか。

2. 買い物について

- ・広島県から移住してきて8年になる。生協を利用している。「生協+車を運転して買い物」で生活している。生協は家まで持ってくるので料金が割高。生協や町との連携もありかと思う。自転車で買い物に行っている人もいる。セブンイレブンが御用聞きをやって成功した事例がある。
- ・昔は、生協を活用していたが、勤め人が増え、取りまとめ役がいなくなり自然消滅した。（3年程前）
- ・現在、弁当の配送サービスもある。（JA）
- ・宅配サービスはかなりあって、ニチイの食卓ヘルパー、イオン、ネットスーパーなど。でも、地元にあるのは良いこと。
- ・（移動販売が来て、）物を見て買いたい。

3. 拠点の場所について

- ・候補1（泊港内）が便利で良いと思ったが、浸水が心配。拠点で泊の魚を一手に買い上げるなどできないか。
- ・車で行くことになるので、津波のこと考えると候補2（青少年の家敷地内）、3（公民館敷地内）が良い。地元の人、運動のために歩いて上がってもらってはどうか。
- ・候補2は広くてよいと思う。候補3は坂が気になる。津波を考えると候補1よりは、2、3の高い方がよいと思う。候補1に行く場合、道が狭いが、候補1は海が見えてよい。
- ・筒地に施設ができれば人が集まってくると思う。（人を運んでくるため）

4. その他

- ・車が運転できなくなったらどうするかが課題。
- ・現在、地区内で車が運転できない世帯は1世帯。買い物は近所の人に乗せて行ったり、タクシーなどを活用している。
- ・自分の家は、孫の代もいて今は心配していない。何とかなる。核家族は理想ではないと思う。
- ・免許証返納が増えてきている。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（原区）記録		
日時	2017年7月4日(火)19:00～20:25		
場所	原集会所		
出席者	(委員4名) 遠藤公章、石沼友、岩本馨、鷲野星夫 (敬称略) (住民) 15名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計22名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・空き家の利活用について、移住後の移住者への支援、面倒をみることも必要ではないか。
- ・旧泊地区にあまり土地はないと思う。インターチェンジ付近だと宅地ができると思う。行政と民間が連携していく必要があるのではないか。

2. 買い物について

- ・施設があった方が便利。地元の施設(店)を利用する人がいなくなったので、店がなくなった。農業からサラリーマンになり、通勤時に倉吉市で買い物をしてしまう。車を運転できなくて動けない人(一人暮らし、二人暮らし)が困っている。子世代が同居している人は困っていない。病院(一番必要)、店がある所では生活ができる、人が増える。店は住民が「自分達が店を守る」意識を持たないといけない。ガソリンスタンドがなくて困っている。
- ・流通が重要だと思う。インターネットも発達してきている。人、物の移動の仕組みを作った方が良いのではないか。店舗よりも物流の拠点の方が良いのではないか。生協などは、家まで商品を持ってきてくれる。
- ・将来は、買い物よりも病院がなくなることが心配。車に乗れなくなった場合に、病院への移動が不安。
- ・店や施設は減少していくので、移動手段の確保が大事。呼べばすぐ来て、小回りのきく軽自動車が良いと思う。家の近くまで来てほしい。(高齢者はバス停までの移動、荷物を運ぶことが大変)
- ・羽合地域(田後)が便利。移動販売で来てもらう。

3. 拠点の場所について

- ・拠点(店)をつくっても、地元の人が使うだけでは商売が成り立たない。県道22号線の朝・夕の交通量は多い。JAの場所やインターチェンジ付近などを拠点にできないか。人が集まるような特別な仕掛け、人材確保をすべき。
- ・泊地区に店舗(拠点)があっても、羽合地域に行く。奥まった所よりもインターチェンジ近くがよいと思う(町外からの来客も含めて)。羽合地域の医院では、来てもらえれば送ってあげる医院もある。午前、午後1、2回まわる程度でも移動手段があればよいと思う。候補3(公民館敷地内)につくっても地元の人には歩いていけないと思う。

## 4. その他

- ・子どもが少なくなり、友達も少なくなってくる。競争心がなくなる心配がある。泊小学校の運動会は以前は3チームあったが、現在は2チームになっている。合奏・合唱するにも人数が少ない。集団的な学びができなくなる。
- ・農村、森をどうやって守っていくかも話し合ってほしい。環境、田、休耕地をどうやって守るか。荒地になることが問題。機械を整備して貸し出すなど支援をしてほしい。
- ・公民館に足を運ぶ、活用する団体を作ることや、支援することが必要ではないか。
- ・区長の業務量が増えている。手続きが煩雑なので、簡素化できないか。地域がのびのび活動できるシステムを作してほしい。
- ・泊地域は、インターチェンジ、駅などあり立地はよいと思う。
- ・仕事（企業誘致）の話し合いもしてほしい。
- ・活動の情報発信をしてほしい（町報、インターネット）。泊が忘れられたり、知らない人が多くなっている。羽合地域から泊小学校に通学している人の話を聞くと「来てよかった」という声がある。外に向かって情報発信をしてもらいたい。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（泊5区）記録		
日時	2017年7月9日(日)9:30~10:30		
場所	地藏堂		
出席者	(委員3名) 遠藤公章、石沼友、石井美佳代 (敬称略) (住民) 21名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 岩崎室長、谷岡主事	計26名	
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・羽合地域との違いをみれば課題はみえてくる。羽合地域は買い物、医療があり、交通の便がよい。駐車場付の家でないと売れない。泊地域でそういう所を見つけていく。町の中で先進地は羽合地域。若者で泊地域から出てしまった人が戻れる、出てしまう人をつなぎとめる支援が必要。
- ・泊地区の大きな古民家が2軒売れた。空き家解体費の支援があればよいと思う。駐車場付家が必要。盆・正月には故郷が懐かしくて帰ってくる人もいる。

2. 買い物について

- ・車の運転をしなくなると、買い物、医院への移動が困ってしまう。さっといける場所にあれば助かる。地域づくり。医者に行くなどは、社協が移送を行っていたが公では難しいと思う。車を購入してシルバー人材センターに頼むなどしてはどうか。民間がするのは難しいと思う。
- ・店舗運営は大変なので、移動販売か。今は社協が移動支援（医者+買い物）を月に2回しているが、医者の時間が伸びてしまい、買い物する時間がないという話を聞く。医者にはもう少し行きたいので困っているそう。
- ・車に乗れなくなったらどうするか考えていた。民間でも収益が上がらないといけないし、買い物の運営方法をどうするかが課題。国からの支援があるのか。NPOを設立するか、支援があるのか。

3. 拠点の場所について

- ・公共施設を置くにも適地がない。原区、石脇区よりは港区（候補1）がよいと思う。津波は仕方ない部分。施設機能をまとめてつくった方がよいと思う。
- ・候補2、3は登るのが大変。そうなる候補1。平地の所がよいと思う。土地がうまく利用できるかが課題。
- ・施設を解体するにもお金がかかる。

4. その他

- ・吉田医院、さくら歯科をどのように続けていくか、医者の確保をお願いしたい。



件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（泊3・4区）記録		
日時	2017年7月9日(日)11:00~12:05		
場所	漁村センター		
出席者	(委員2名) 遠藤公章、石沼友 (敬称略) (住民) 16名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事		計 21名
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・人口を増やすには、妙案はなかなかないが、人口流出をいかに防ぐかを考えていただいたら、人口増につながると思う。
- ・空き家を利用したいという人はいないのか。→いる。
- ・宅地造成をして受け皿をつくってから来てもらう。JA、インターのあたりなど良い所だと思う。

2. 買い物について

- ・現在、潮風クラブ（高齢者クラブ）で社協の車を借りて、買い物ツアー（施設見学+買い物）を予定しており、20人程度が参加予定。今後も継続していきたいと思っている。泊地域内での店舗は不可能だと考えている。傷まないものであれば可能と思う。石脇区の生協は3年か3年半で閉店した。若い世代は車で買い物に行ってしまった。その中でコミュニティを開いたが、収支が合わなくなり辞めた。JAの店舗も閉店が続いている。声をかけても、店に入っていない。若い世代は車で買い物に行ってしまうし、高齢者は減っていく。店は「欲しい」と言うが、無くても生活できているので町、社協、潮風クラブなどで、買い物に連れて行く形でないと感じる。
- ・生活の中で必要になったものをメモしておき、車移動で買い物に行けるときにメモを活用するなどの習慣を身につける必要がある。
- ・役場支所内にコンビニを作ってもらいたい。国、県からの補助金を精査して活用してもらいたい。
- ・筒地区や宇谷区など離れた地区の人たちは、店舗がどこでも関係ないと思う。移動販売も来ているので強化して、生鮮品（魚、肉）を乗せて泊地域を回ってほしい。衣類を載せている事例や散髪屋が回る事例などもあるので、検討してもらいたい。
- ・夫婦2人で暮らしていて、運転しなくなり困っていることが、吉田医院、シミズ理容室は徒歩圏内にあるが、買い物が大変。魚屋も来るし、宮下商店にも行くが、野菜が欲しいとなれば、バスで羽合地域まで3日に1回出ているので、少しでも手間がなくなればと思う。サカナクワイ屋では惣菜を11:00くらいから売っていると聞いたので、行ってみようと思う。
- ・買い物は若い世代がいるので大丈夫だが、近くに店があればいいなと思う。ちょっとしたものであれば、宮下商店などで買えているが。
- ・コンビニなどを拠点に置いて、移動販売、出張販売を充実、支援してもらえればと思う。
- ・店舗は小売りのみではなく、福祉的な要素も入れ店と福祉施策をマッチングすると良いのではないかと。地域住民が応援をする形が必要。

3. 拠点の場所について

・漁村センターの構想検討に2年かかった。35年経過なのでまだ使えると思う。避難所にもなっている。

4. その他

- ・泊小学校は、県内でも歴史ある小学校。学習機能を他地域に移さないことが重要。できれば泊地域内の児童を増やすことを話し合してほしい。
- ・歩けなくなった人の意見が重要だと思う。

町長 水光  
副町長 伊藤 隆一  
町議 藤田 昌  
町議 藤田 隆

町議 藤田 隆一  
町議 藤田 昌  
町議 藤田 隆

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（泊6区）記録		
日時	2017年7月9日(日)16:05~17:18		
場所	地蔵堂		
出席者	(委員2名) 遠藤公章、石沼友 (敬称略) (住民) 14名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計19名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・浜山団地はすぐに売れた。6区にも空き家が多い。
- ・空き家を探している人もいるが、所有者の問題や条件が合わないなどがある。マッチングできれば、リフォーム、建替えの補助もあった方がよいと思う。
- ・泊地区の中の道が狭い。空き家があっても、車が置けない。見に来る人もいるが。
- ・一人一台車を持つ時代。敷地内に車が停められる必要がある。浜山区のように住む場所・人の確保が大事。造成地がなかなかないと思う。
- ・丸山（松屋の裏山）を平地にして、団地にしてはどうか。

2. 買い物について

- ・お年寄りの買い物が困る。免許証を返納したいが、仕方なく持っている。(災害時には若い人が運んであげる。) 移動販売(週2、3回)については八頭郡では移動販売+見守りをしているようだ。今は子どもが買ってきてくれている。役場支所のスペースを活用して農家が持ってきた野菜を売れないか。
- ・一人暮らしなら月に何度か買い物に連れて行ってもらっている(社協バス)。一人暮らしじゃなくても活用をしたい。→活用可能です。昔の100円バスがよかった。(羽合地域の店などにも行っていたため。)
- ・歩ける間の問題は、買い物。大きな店には勝てない。生活必需品など最低限度の品ぞろえでよいと思う。行政からいくらか補助するなど必要だと思う。人件費、光熱水費などは行政から支援してもらいたい。高齢化でも生きていけるまちづくりには、発想の転換が必要。
- ・コンビニはほしい。若い人も買うと思う。
- ・泊地域の現存する商店との調整が必要だと思う。行政が補助をすれば成り立つと思う。
- ・行政が支援をして、商品を安くしてほしい。
- ・店舗をやるとしたら、移動手段を考えてほしい。足が悪くなると歩くことが不便になる。

3. 拠点の場所について

- ・公民館(候補3)まで上がるのは大変。さくら歯科まで行くのも大変な状況。
- ・小さな拠点は、歩いて行ける範囲に機能をまとめるべき。候補1~3まで対象になると思うが、候補2、3は遠い。

## 4. その他

- ・魚釣りに多くの人がかかる。駐車場、トイレを整備するなど魚釣りで活性化できないか。
- ・サカナクワイ屋ができて、賑やかになった。夏泊では定置網をやって人が集まってきている。泊でも定置網をやればいいのではという声も聞いている。農業漁業者が少なくなって、サラリーマンの時代になって便利な場所へ移っている。小さなことからでも少しずつやるべきだと思う。
- ・住民一人一人が株主になるなどやる気になることが重要。島根県雲南市は住民が出資している（株主になる）、利用もする。店を守る意識付け。ガソリンスタンドもほしい。地域包括ケアとの連携も必要。最後のチャンスだと思う。
- ・アンケート（〇×形式）を全戸としてはどうか。
- ・アンケートよりも、このように住民の生の声を聞いた方がよいと思う。住民の啓発が必要。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（浜山区）記録		
日時	2017年7月10日(月)19:40~20:35		
場所	活性化センターはまなす		
出席者	(委員4名) 遠藤公章、田嶋昭彦、坂田克、鷺野星夫 (敬称略) (住民) 5名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計12名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・家を建てる土地がない。分譲地ができれば人が増えると思う。
- ・それなりのものがないと人が来ないと思う。

2. 買い物について

- ・取組むことは良いことだと思う。買い物は2週に1回行っている。一度出れば他の店も回っている。
- ・今は車で運転して行けるので不便さを感じていない。
- ・生協を利用しているが、買い物全てを生協にすると金額が高くなる。現物を見て買いたい。生協は浜山区で3グループほどある。

3. 拠点の場所について

- ・自分は歩けるので候補2（青少年の家敷地内）、3（公民館敷地内）も大丈夫だが、年をとると歩いて行くことが大変なのではないか。車がないと行けないのではないか。
- ・浜山区から候補2は遠い。コミュニティバスを回さないとダメだと思う。
- ・上（候補2、3）よりは候補1（泊港内）が良いと思う。
- ・人が集まるには駐車場があるので候補1が良いと思う。候補2、3は狭い。
- ・候補1が行きやすいと思うが、夏祭りが心配。
- ・候補2がよい。今でも役場周辺を車で移動できていて苦とは思っていないから。徒歩の人は厳しいと思う。

4. その他

- ・浜山区に公営住宅があったため、ここに来た。公営住宅がなかったら羽合地域のアパートなどに住んでいたと思う。泊地域に環境（店など）があった為や、惹かれたわけではない。住めば良いところ。
- ・抽選で当たり浜山団地へ住んでいる。子どもの遊ぶ所がない。キリン公園のようなものがあれば良いと思う。貝がら広場と浜山公園は別のものであるという意識がある。公園があるから住みたいなという意見もあると思う。
- ・今の検討内容は他地域でもやっている。大きな筋の通った特化したものが必要だと思う。隠岐の島海士町の「ないものはない」や智頭町の「森のようちえん」など。
- ・動物園、水族館をつくってはどうか。県内には小さなものしかない。集客、就職につながるのではな

いか。

- ・関西からサーファーも来ている。サーファー（外からの人）にも意見を聞いたら良いと思う。

発言者	発言内容	発言時間
		00:00
		00:05
		00:10
		00:15
		00:20
		00:25
		00:30
		00:35
		00:40
		00:45
		00:50
		00:55
		01:00
		01:05
		01:10
		01:15
		01:20
		01:25
		01:30
		01:35
		01:40
		01:45
		01:50
		01:55
		02:00
		02:05
		02:10
		02:15
		02:20
		02:25
		02:30
		02:35
		02:40
		02:45
		02:50
		02:55
		03:00
		03:05
		03:10
		03:15
		03:20
		03:25
		03:30
		03:35
		03:40
		03:45
		03:50
		03:55
		04:00
		04:05
		04:10
		04:15
		04:20
		04:25
		04:30
		04:35
		04:40
		04:45
		04:50
		04:55
		05:00
		05:05
		05:10
		05:15
		05:20
		05:25
		05:30
		05:35
		05:40
		05:45
		05:50
		05:55
		06:00
		06:05
		06:10
		06:15
		06:20
		06:25
		06:30
		06:35
		06:40
		06:45
		06:50
		06:55
		07:00
		07:05
		07:10
		07:15
		07:20
		07:25
		07:30
		07:35
		07:40
		07:45
		07:50
		07:55
		08:00
		08:05
		08:10
		08:15
		08:20
		08:25
		08:30
		08:35
		08:40
		08:45
		08:50
		08:55
		09:00
		09:05
		09:10
		09:15
		09:20
		09:25
		09:30
		09:35
		09:40
		09:45
		09:50
		09:55
		10:00

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（港区）記録		
日時	2017年7月11日(火)19:35~21:00		
場所	港区公民館		
出席者	(委員3名) 遠藤公章、朝日田卓朗、鷺野星夫 (敬称略) (住民) 9名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計15名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・アパート、一軒家を設置し、空き家リフォームしたら人口が増えるのではないかな。
- ・新しく家を建てようとしても、泊地域は土地がない。分譲地があればよいと思う。
- ・子育て世代が泊地域に引っ越してきたら、何かメリットがあればよいと思う。子どもを産んだ場合に祝金をだすなど。
- ・琴浦町のきりりタウンでは、定期借地権付契約で固定資産税がかからず、将来的には買い取れる制度があるが、そのようなことはできないか。
- ・空き家は多くあるが、所有者がなかなか売ってくれない状況。空き家を町で買い取ってもらえないか。空き家を購入して、新築、改修するにも解体費がかかる。解体に対する支援をしてもらえないか。

2. 買い物について

- ・候補1（泊港内）がよい。車も頻繁に通る。平地なので高齢者も来られると思う。心配なのは高齢者の他に若い世代も対象とするのかという点で、価格が問題だと思う。継続するには収益が必要。店舗があればうれしい。買い忘れ時などに利用できそう。営業する時間も問題だと思う。
- ・買い物難民を支援しているコンビニのようなところとタイアップできないか。
- ・最初は行政からの支援があっても、支援がなくなった時が心配。最初は町が運営管理（定年退職者を雇うなど）して、人口が増えてきた時に代わりに運営する人が出てくる流れがよい。自分から店をやるとは言いづらい。店を構えるのは怖い。

3. 拠点の場所について

- ・候補1 港周辺はよい。この事業が成功した後の発展がありそう。釣り人も多いので呼び込めたらよいと思う。
- ・候補1に拠点をつくった場合に、港のゴミ問題を管理してもらえれば助かる。
- ・子ども達が買い物をするには候補1がよい。
- ・候補1がよい。店舗+喫茶店（憩いの場）など見守り機能があればよいと思う。
- ・候補1がよいと思う。泊駅の周りにも何か（買い物）があればよいと思う。泊地域も広いので、遠くの人（高齢者）もバスなど移送できるものがあればよいと思う。
- ・港は充実してきているので、候補1のあたりに何かあればいいなと思う。サカナクワイ屋、ウォーキングなどイベントが多くあればよいと思う。海、山両方に近いため人が寄ってくるのではないかな。

4. その他

- ・ 民間の力でどこまでやれるかわからない。行政も一緒に考えて関わらないといけない。
- ・ 釣り堀をつくってほしい。
- ・ サーフィン、釣りで県外からも多くの人 coming している。
- ・ 役場泊支所付近にコミュニティが出来れば、医院もあり寄りやすいと思う。
- ・ Uターンをして両親をみているが透析などの通院が大変。実家は道が狭く車が入れないため車イスを使っている。両親は地元を離れたくないと言っている。役場支所を有効利用できないか。山の方（候補2、3など）にも何か施設（宿泊、人が集まれる場所）ができないか。遊ぶ場（カキ小屋など）があれば都会の人が観光で来てくれると思う。

(市職員)

行政も一緒に考えて関わらないといけない。

釣り堀をつくってほしい。

サーフィン、釣りで県外からも多くの人 coming している。

役場泊支所付近にコミュニティが出来れば、医院もあり寄りやすいと思う。

Uターンをして両親をみているが透析などの通院が大変。実家は道が狭く車が入れないため車イスを使っている。両親は地元を離れたくないと言っている。役場支所を有効利用できないか。山の方（候補2、3など）にも何か施設（宿泊、人が集まれる場所）ができないか。遊ぶ場（カキ小屋など）があれば都会の人が観光で来てくれると思う。

行政も一緒に考えて関わらないといけない。

釣り堀をつくってほしい。

サーフィン、釣りで県外からも多くの人 coming している。

役場泊支所付近にコミュニティが出来れば、医院もあり寄りやすいと思う。

Uターンをして両親をみているが透析などの通院が大変。実家は道が狭く車が入れないため車イスを使っている。両親は地元を離れたくないと言っている。役場支所を有効利用できないか。山の方（候補2、3など）にも何か施設（宿泊、人が集まれる場所）ができないか。遊ぶ場（カキ小屋など）があれば都会の人が観光で来てくれると思う。



件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（小浜区）記録		
日時	2017年7月12日(水)19:00~20:10		
場所	小浜構造改善センター		
出席者	(委員1名) 遠藤公章		
(敬称略)	(住民) 7名		
	(事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室	山根副町長、岩崎室長、谷岡主事	計 15名
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・海に憧れている人も多く、空き家はないかと相談を受けたこともある。

2. 買い物について

- ・車に乗れない人も増えていく。(今ある) 移動販売に注文して持ってきてもらえばよいのではないか。
- ・ハッピーバーディーは週に1回来ている。利用のない所にはだんだん行かなくなると思う。

3. 拠点の場所について

- ・候補2（青少年の家敷地内）がよいと思うが、高齢者が行けるか心配。候補3（公民館敷地内）は小浜地区から海沿いに行くと回り込まないといけない（遠くなる）。候補1（泊港内）では津波の心配があり避難所にならない。
- ・候補2は広いし、津波の影響もなく、機能をまとめてつくればよいと思う。
- ・候補1の場合、津波がくることが予測されるが規制や補助金をパスできるか。かさ上げをするか。人の寄り付きがよく、泊地区の人には便利だし利用者が多いと思う。ただし、安全性に問題がある。

4. その他

- ・独身者が多いので、町が婚活に積極的に取り組んでほしい。
- ・サザエなどを獲るのも規制がある状態なので、そういう部分を緩和してもらいたい。昔は、子ども達が獲って遊んで、地元へ愛着を持てた。地元住民は獲れるようにするなど、一部開放してもよいのではないかと思う。隠岐の島ではある島を開放していると聞いた。
- ・吉田医院の継続をどうするか。補助をしてもよいと思う。現在は、吉田医院か鳥取市青谷町の田中医院に行っている。田中医院も健康診断などに対する町の補助対象としてほしい。吉田医院は駐車場がなくネック。ガソリンスタンドは青谷町のJAに行っている。サカナクワイ屋は地元のものをもっと売ってほしい。
- ・小浜区の住民は青谷方面の医者（歯科、田中医院）を使っている人もいる。
- ・拠点を1階：スーパー、2階：医院、3階：役場というようにひとつにしてもよい。一本化。
- ・吉田医院に補助をして残す必要があると思う。
- ・小浜地区では空き家が5軒あり、山の方の空き家は傷んできている。
- ・小浜地区に塾の先生がいる。拠点に塾の機能もあればよいと思う。教室や塾など自由に使えるスペー

スがあればよいと思う。

- ・羽合地域から泊小学校へ通学するには特色がないといけない。芝生はよいと思う。泊小は上がるのは大変だが、上がれば良い所。
- ・泊小学校は給食がよい。みんなで食べる。そこで作ってできたてを食べる。売りにならないか。
- ・小浜地区に畑ができそうなスペースもある。(現在は、スイカ、里芋など自宅用を栽培)

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（石脇区）記録		
日時	2017年7月13日(木)19:05~20:30		
場所	なりすな会館		
出席者	(委員4名) 遠藤公章、石沼友、石井美佳代、鷲野星夫 (敬称略) (住民) 9名 (オブザーバー1名) 地域おこし協力隊 辺隊員 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、谷岡主事	計16名	
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・小学生とこども園の子どもがいる。こども園の親で、今は祖父母と同居していて、今後も泊地域に住みたいが土地がないので、泊地域外への転居を考えている家族が少なくとも4家族ある。人口を増やす前に流出を防ぐ方が優先だと思う。住みつづけたいのに出ざるを得ないというのはもったいない。残る家族の事例が出れば、他の家族にも刺激になると思う。造成する前にアンケート、希望をとって、確実に売れる数だけでも造成地をつくっていくのも手だと思う。
- ・核家族で若い世代が出て、残った親世代が亡くなって空き家になる。この問題をどうするか。
- ・子世代が出て行けば、40年経てば空き家になる。道路から作り直すなど住宅の基盤整備をしなくてはならなくなる。泊地区は鰻の寝床が多い。造成地としては、浜山団地の西から宇谷区にかけての地域、原区の国道9号線から墓地がある丘陵地帯くらいしかないと思う。
- ・個人で土地を探し、造成するのは労力、費用もかかり難しい。この部分を補ってもらえれば。
- ・歳をとったら、環境を変えたくない。移住したくない。

2. 買い物について

- ・店舗は泊地域住民が出資して、維持していく。移動販売は、補助を受けても成り立たない状況。

3. 拠点の場所について

- ・1番便利なのは、候補1（泊港内）。商工会館はどうなっている。→今は倉庫として活用している。いずれは解体になると思う。役場や住民で活用したいという声があれば、その可能性も考えてく。
- ・人の寄り付きは平地（候補1）がよいが、何十年に1回の大津波を考えると高台（候補2（青少年の家敷地内）、3（公民館敷地内））がよいと思う。

4. その他

- ・石脇区では、空き家が1軒あり、解体の予定。
- ・自分はUターンで海がいいなと思ったが、そこまで惹かれない。何に惹かれるのか。海は他にもあり他地域と競争してもハードルが高い。サーファー（移住につなげる）、釣り公園などを魅力とするか。何か魅力的なものをつくらないと、他地域との競争に勝てない。
- ・大変難しい問題で、考えてもどうにもならない。

- ・消滅集落になっていっている。老人ホームをつくってはどうか。
- ・人間関係、程よいお節介が魅力だと思うが、外からだとなかなか分かりづらい、見えづらい。塾がなく通ってない子がほとんど。選択肢がない。塾に通わせたいという家族もいる。小学校以外のプラスα、学習、スポーツ、習い事が拠点の中にあればよいと思う。
- ・難しい問題。魅力がなかったらダメだと思う。
- ・説明を聞いても、漠然としていて何をしたい、するのか見えてこない。「過疎地域指定」という言葉もあまり良い表現ではない。なぜ店、ガソリンスタンドが無くなったのか。という視点から考えながら、始めることも必要だと思う。住んでいる人は良い所だから住んでいる。どういう人を引っ張ってくるか。ここよりも便利（土地価格、交通、買い物）な所は他にも多くある中、どうするか。
- ・2、3年前に過疎計画策定の役場主催の座談会に参加し意見を出したが、今回と同じ問題（少子高齢化、婚活）のままで変わっていない。進んでいない印象。役場との調整はできているのか。
- ・テーマが大きすぎて、漠然とせざるを得ない。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（園区）記録		
日時	2017年7月14日（金）19：30～20：50		
場所	園公民館		
出席者	（委員3名）遠藤公章、石沼友、田嶋昭彦 （敬称略）（住民）6名 （事務局）湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、谷岡主事 計11名		
決定事項 （合意事項）			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・園区は住宅を建てる土地がない。浜山団地ができてすぐに埋まった。その後造成が追い付かない。一里浜線は一等地だと思ふ。原区から宇谷区にかけて活用できていない。津波の問題もあるが、空き地がある。高低差があるが、盛土などして造成地にしたらよいと思ふ。

2. 買い物について

- ・移動販売を各地区公民館単位で回るのはどうか。移動スーパー。各公民館には徒歩で行ける。営業時間も問題。若い世代は、営業時間時には地元にはいない。勤め先で買ってしまふ。拠点に店舗を構えた場合、遠くの人には来られないので、移動スーパーがよいと思ふ。地元負担が必要となれば、各地区の総会にかけることになり、承認が必要だと思ふ。簡単にはいかないと思ふ。
- ・買い物をしようにも免許証を返納して持っていない人がいる。園公民館に魚（週5～6日 10：30ごろ、水曜休）と野菜、果物（昼、夕方ごろにくる）の移動販売が来る。青少年の家の敷地に店をやっても、行けない。園区では20～30軒は一人暮らしだと思ふ。動けなくて買い物に困っている。倉吉駅前にスーパーがあったころはJRで行っていた。今は、駅前にスーパーがないため、困っている。江府町、日南町の移動販売がよい話を聞く。高齢者はそのような移動販売を望んでいると思ふ。
- ・個人が店を出すことには反対。成り立たない。
- ・宅配はできないか。注文を聞いてまとめて宅配。インターネットは難しいと思ふが、予約注文など。
- ・生協の配達は便利で、利用している。
- ・ネット注文もよいが、お年寄りには使えないと思ふ。

3. 拠点の場所について

- ・車が運転できなくなると、3つの候補地には高齢者は徒歩や手押し車で行くことになるが、風雨などの時は大変。宇谷区、原区の人が拠点までくるのか問題になる。
- ・各地区に便利な店ができたなら、今ある店と競争になる。各地区に店があれば価格も安くなると思ふ。近くに店があるといいなと思ふが、良い点と悪い点がある。
- ・津波の心配がなければ、候補1（泊港内）がよいと思ふ。候補2（青少年の家敷地内）、3（公民館敷地内）は階段を上るのが大変。野菜や生鮮品は毎日欲しい。その場合、候補2、3は大変。避難に合わせるか、割り切るか。

## 4. その他

- ・泊地域の14区で人口が多い区は宇谷区、園区、石脇区であり、それらから遠い位置に拠点を考えているが、合意形成ができるか。公共施設の跡地に候補地があるが、それぞれ今は指定避難所から外れている。園区の津波の避難所は青少年の家だったが、今、園区は外れている。総務課と話してほしい。
- ・「人口を増やすにはどうすればよいか」は、我々も含めて国の政策の問題だと思う。「お年寄りがこれからは暮らし続けるにはどうすればよいか」については、免許証返納後どうするか。今は子世代が同居していて、頼めば買ってきてもらっている状態。車がなくなると、病院にも行けない。農業をどうするか。免許証の範囲（地域）を限定などできないか。ライフラインよりも農業、病院、イベントに行けなくなることが困る。町からのタクシーチケット配付もあるが、利用者が何人いるのか、使ってまで出ていくのか疑問。迷っているところ。移動販売をするにも売り手側の儲けが出てくるかどうか。民間の店舗がなくなっていったのも人口減が原因。公共も手が出せない部分。採算を考えないとすぐに潰れるという懸念もある。今の状態なら、免許証を死ぬまで手放せない。
- ・過疎計画の座談会の時に「過疎」をもっと町長や議会が取り上げてほしいと言った。過疎計画について、町報や議会だよりで掲載するなど過疎計画に沿った事業を取り上げてほしいと言った。サカナクワイ屋、海の駅とまりがあるが、賑わいが見られない。過疎計画との調整、連携が必要。地域おこし協力隊が町内にいるが、泊地域の話題が少ない。地域おこし協力隊の泊地域での活動を働きかけてはどうか。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（泊1区）記録		
日時	2017年7月15日(土)19:05~20:45		
場所	泊1区公民館		
出席者	(委員1名) 石沼友 (敬称略) (住民) 15名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、谷岡主事	計 18名	
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・難しい。分譲地をつくってもどこまで人口が増えるか。泊1区から園区、原区、宇谷区にかけては大きな一軒家が多く、若い世代も一緒に住める。泊地区内は同居できないので、浜山団地、羽合地域に出てしまう。
- ・昔、羽合地域への流出があったため、浜山団地を造ってすぐに埋まった。町が開発をしたら埋まると思う。大きな宅地開発ではなくても、小さなものがよいと思う。

2. 買い物について

- ・近くに店ができればよいと思う。石脇区、宇谷区にもあった。よほど考えて取り組まないと同じようなことを繰り返すことになると思う。商品には消費、賞味期間があり、難しいと思う。
- ・自分は運転ができないので、主人に乗せてもらっている。買い物が一番困っている。移動販売が頭に浮かぶ。週に数回、家の前まで来てもらえれば買いやすい。昔は移動販売が来ていたが、今はない。移動販売は生ものがないのでほしい。
- ・買い物がなかなかできない。高齢者クラブの買い物ツアーに出て、品物も多くて楽しく買い物ができた。買い物で子をあてにもできない状況。忙しいので。
- ・若い人と同居しても若い人は車で出られるが、高齢者から日常の買い物支援が欲しいという声を聞く。今ある店舗がいつまで続けられるか。今ある買い物支援でいえば、社協と移動販売の環境を整えればよくなると思う。
- ・移動販売しかないと思う。拠点を作っても、利用するのは泊地区～園地区のみで、宇谷地区、原地区は利用しないと思う。若い世代と住んでいれば、頼んで買ってもらう。拠点1カ所なら移動販売。

3. 拠点の場所について

- ・候補1（泊港内）に拠点をつくれれば活性化になると思ったが、災害を考えるといけないと思う。複数機能（役場、買い物、地域コミュニティ）を一カ所にするのは良いこと。
- ・候補3（公民館敷地内）は、雪が降ると上がれない。候補1がよいが、災害時が心配なので、候補2（青少年の家敷地内）が雪でも候補3よりは上がりやすいと思うのでよいと思う。車で買い物に行けなくなった場合、重いものを買った時に大変で困ると思う。配達してもらえればよいと思う。
- ・候補1の津波は無視できない。候補2、3の高台も移動に難がある。他の候補地を探してもらいたい。多機能はよいと思う。人も集まってくる。石脇区の店舗がうまく機能しなかった。分析して地域にあ

- った場所づくりが必要。東郷地域に人が集まりやすい所ができています。買い物、サロン、体操など。
- ・役場機能が災害区域にあってもよいと思う。避難所は高台にあればよいと思う。候補1がよく、公設民営がよいと思う。入りやすく、夜に鍵が閉まらないように民営がよいと思う。カフェスペースや役場機能にちょっとした買い物ができれば。商工会がバックアップして店舗を誘致できたら。
  - ・候補1：8人、候補2：3人（こども園、社協が近くで良い。津波を避ける。）、候補3：0人

#### 4. その他

- ・昔は、人口も店も多く住みやすい村だと思っていた。高齢者が一番困っている。買い物、医院、泊支所に行くのも困っていて、交通手段を考えなくてはならない。
- ・なぜ若い世代が外に出ていくのか。昔は親を見守ることが普通だった。横並びで疑問も持たなかった。世の中の現状を考えると子育て世代流出は時代の流れではないか。高齢者のムラとして施策をするという切り替えでやらないといけないと思う。シルバーカーやコミュニティバス（100円）などのある高齢者のムラとするか、造成するなどを決めないと小さな拠点ができて空中分解をしそう。拠点はありがたいことではある。泊3、4区で空き家が増えていて、親が亡くなっても子世代が戻らない。
- ・人口を増やすことはどの地域も考えること。仕事がないとダメだと思う。車社会で駐車場がないなどで人が出ていく。泊地域に高齢者施設をつくるのはどうか。雇用も出る。入所もできる。
- ・つわぶき荘は先進的すぎた。
- ・介護予防が町内に1カ所あるが知られていない。泊地域でも盛り上げていったらいいと思う。今年度は、あずま園、東湖園で行われている。高齢者向けの運動教室。
- ・今は5軒1組で全員一人暮らし。互いに声を掛け合っている。若い人をお願いしたりしている。子どもがいても勤めに出ているとなかなか頼みづらい。
- ・この会の主旨がよくわからない。浜山団地ができて人口が増えた。山陰道ができて泊地域は鳥取県の中心地にある。通勤しやすい。仕事を泊地域に置く必要はないと思う。住む場所を提供すればよいと思う。田後地区が成功例だが渋滞が問題だが、泊地域は渋滞がなく楽である。泊地域は避暑地によいと思う。勤めの人には買い物を職場近くで済ませる。自分は子どもに外に出ていくように言っている。
- ・筋トレを申し込んで行っている。月に2～3回。
- ・人口を増やすよりも今住んでいる人の環境と整えるほうが先決だと思う。娘2人は町外に出た。泊地域で子を産み育てる環境ができるとは思えない。役場の中心業務は羽合庁舎になり、文化、教育、経済の中心が羽合地域へ集中して、泊地域でいいところが思いつかない。
- ・気楽に暇つぶしで外に出られる、よどや、梅やのようなものが泊地域にあればよいと思った。ちゃんとお金を払うカフェ。外でお茶を飲めるカフェなどくつろぎの場が欲しい。泊1区に限らず、泊各区にあればよいと思う。拠点ができるまで（3年など）に技術を磨いて泊地域の魅力、誇りになるような、よいカフェができたら。
- ・商工会館を何かで活用できないか。憩いスペースなどに活用できないか。
- ・自分たちでやる必要があり、課題である。松崎地区はすごいと思う。
- ・どれだけ勤め先が町内にあるか。独居世帯と同居世帯の数を抑えるべき。高齢者になると社協のお世話になる率が高くなる。社協の窓口をどれだけ広げてもらえるか。
- ・若い世代と同居している場合は、子ども世代が独身の場合。
- ・人口対策について、町としてどう考えているか。羽合地域など一カ所だけ増えればいいのか。全体が増えなくてはならないのか。
- ・今までは同居世帯が多かったが、現在は、核家族化している。元の泊地域の活性はどんなだったか。泊地域は海、魚が基準で店ができて発展してきた。今までのことも振り返ることも必要だと思う。



- ・過疎化が進んでもよいのではないか。空き家が増えれば、その分大きな家が建つのではないかな。
- ・しおさいプラザを建てる時、生活を考えると高い位置のため、足と利用しやすさで泊1区裏（泊港内）がよいという話がでていた。
- ・各施設の解体後の跡地利用についてはどうするか。

件名	H29 地域小さな拠点住民説明会（泊2区）記録		
日時	2017年7月20日(木)19:30~21:07		
場所	泊2区公民館		
出席者	(委員2名) 遠藤公章、鷺野星夫 (敬称略) (住民) 16名 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事		計 21名
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会 住民説明会資料		

<説明会で出された意見>

1. 住む場所・人の確保について

- ・造成ならインターチェンジ付近、JAの土地がいいと思う。
- ・人口増には団地ができれば一番よいと思う。インター付近がよい。山陰道完成で鳥取市、米子市への通勤者が住むということも出てくるのではないかな。
- ・原区有地を町へ売の話があったと思う。原区は区内に造成地ができることは歓迎していると思う。わかばこども園付近。泊地区を造成するよりも安いと思う。
- ・泊地区内に空き地ができて買い手がない。若い人は新しい団地がよいと思う。

2. 買い物について

- ・社協バスが利用できない時は、日本交通の路線バスを利用している。バス停までの移動は、元気なうちはよいが。
- ・タブレットで注文、配達も併用したらどうか。在庫を抱えなくてもよくなる。
- ・はたマーケットのように行政の支援がないと誰も手を挙げないと思う。30年前に商工会、役場などが連携して、東京から講師を招くなど動きがあったが、誰がやるかで頓挫した。行政の後押しがないと難しい。
- ・店舗は24時間営業じゃなくてもよい。6時から20時営業のコンビニでよい。生鮮品を手にとって見たい。店を構えてもらいたい。日南町ではローソンの車が移動販売をしている。行政→協議会→民間(補助)がよいと思う。最初は補助などがあるが、継続が難しい。自分達も10年後には免許証返納もありうる。
- ・移動販売は、泊地域のみでは厳しい。羽合地域、東郷地域も含めて考える。総合的に羽合地域が良く、東郷地域・泊地域は同じような問題を抱えている。
- ・泊地区に移住してきた時、魚屋があつて、毎日魚を食べられると思っていたが、店がない。サカナクワイ屋ができて、足りない部分もある。魚メインにして、魚目当ての人がついでに買ってかえろるかというように、特色を持たせてはどうか。→それでは、経営が成り立たないと思う。漁師が少なくなり、漁も減ってきている。夏泊港が定置網をしていて境港に魚を出すなど、人気がある。泊港も平成30年に1年間定置網を復活させると聞いている。

3. 拠点の場所について

- ・原区、宇谷区の人が役場を利用する時に、こちらまで来なくてはならない。原区、宇谷区のこと考

えないといけない。泊地区のみなら、候補2（青少年の家敷地内）、3（公民館敷地内）より候補1（泊港内）がよいと思う。

- ・インターチェンジ付近に拠点をつくと、車移動の人はよいし、地域外の人でも来て売上げはよいが、歩いていけない。
- ・小さな拠点だけでなく、造成も提案に入っている。同時（造成と拠点）にしてはどうか。候補2近くの山を削れば、土砂災害計画区域も減る。原区、宇谷区、石脇区にも土地があり可能性はある。
- ・役場、公民館を集約して、候補3のあたりに建てた方がよいと思う。店舗はよいが、役場機能は津波にあってはいけないと思う。現役場支所の3、4階を減築してはどうか。役場を2階建てにして、2階をコンビニにしてはどうか。
- ・候補3は、足がダメになると上がれなくなる。
- ・候補2に拠点（造成地）を建てたら、こども園、小学校に近くてよいと思う。以前、原インター付近に施設を建てる話もあったが、泊地域が寂れるという話があった。

#### 4. その他

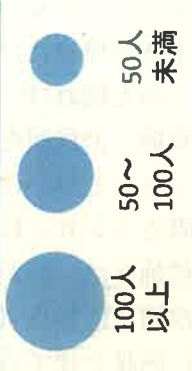
- ・これまで泊地域は過疎地域ということで、手厚い支援があったが、良くならなかった。
- ・吉田医院、医院機能の継続をどうするか。医院の集約もできると思う。さくら歯科も高い所にあるので、集約できないこともないと思う。
- ・こども園のあり方検討委員会に出席している。保護者は少人数よりも多人数を望んでいる。泊小学校と羽合小学校の建物を比べてみても、羽合小学校は教室が足りない状況。町内の小学校校区をフリーにしてみてもどうか。泊小学校は良い環境だし、施設も良い状態。しかし現状は、住民感情があり難しいと聞いた。今年度、羽合小学校から泊小学校へ通学可能になり、羽合小学校ではクラスが1つ減じた。このことに対し、「ぎゅうぎゅう詰め」という意見もある。泊小学校は子育てするには良い環境なので、もっと宣伝できればよいと思う。学歴の「学力」をターゲットにするか、生活力の「学力」をターゲットにするか。こども園の保護者は学習（字、算数など）を求めている。→このことは、行政、教育委員会の仕事ではないか。教育委員会がどう考えるか。
- ・教育となると別の話だと思う。主になる大事な部分として、若い人がなぜ住みたがらないのか。問題は、買い物だけではない。もっと調べないといけない。若い人が大人になってから自分達と同じ考えにならないと思う。インターネット環境など、高い年代の人が若い世代のこと考えてもズレがある。買い物で若い人を取り込むのは車やネットがあり無理だと思う。造成が現実的だと思う。次男、三男が逃げないように。
- ・今暮らしている世代の定着と他から来てもらう人のことを考えなくてはならない。
- ・こども園は1つでよいのではないか。わかばこども園とあさひこども園は同じ時期に建てた。両方使うためには、わかばこども園周辺に造成地をつくってはどうか。
- ・協議会（小さな拠点、こども園など）が複数あるが、互いの情報を共有できれば、チグハグが起きないのではないか。→各会で共通の委員もいるため情報共有はできていると思う。あとは、出された意見を役場、議会がとまりまとめて、町をどうしていくかが課題。
- ・こども園を1つにしたいのは効率の問題か？→保護者は多人数がよいと言う。少人数だと役員をやらなくてはいけない。
- ・このままだと、あと10年しか住めないと思っている。免許証返納。歳をとったら、倉吉駅付近が住みやすいという話もある。
- ・道の駅のようなものが、JA、漁協と一緒にできないか。
- ・石脇海水浴場がなくなったことが痛い。海水浴場がなくても、海岸に来ている客もいる。

泊地域における世帯数、人口等の状況



区	H17			H27		
	世帯数	人口	75歳～ ～14歳 (%)	世帯数	人口	75歳～ ～14歳 (%)
小浜	33	98	19.4	29	75	21.3
筒地	10	42	19.0	9	32	6.3
石脇	106	362	12.4	107	335	16.1
泊	303	928	12.8	273	766	20.0
園	186	640	18.6	187	579	16.9
原	66	250	16.0	67	191	26.2
宇谷	167	634	13.2	161	540	20.2
泊地域	871	2,954	14.7	833	2,518	19.1

75歳以上(内数字は人数)

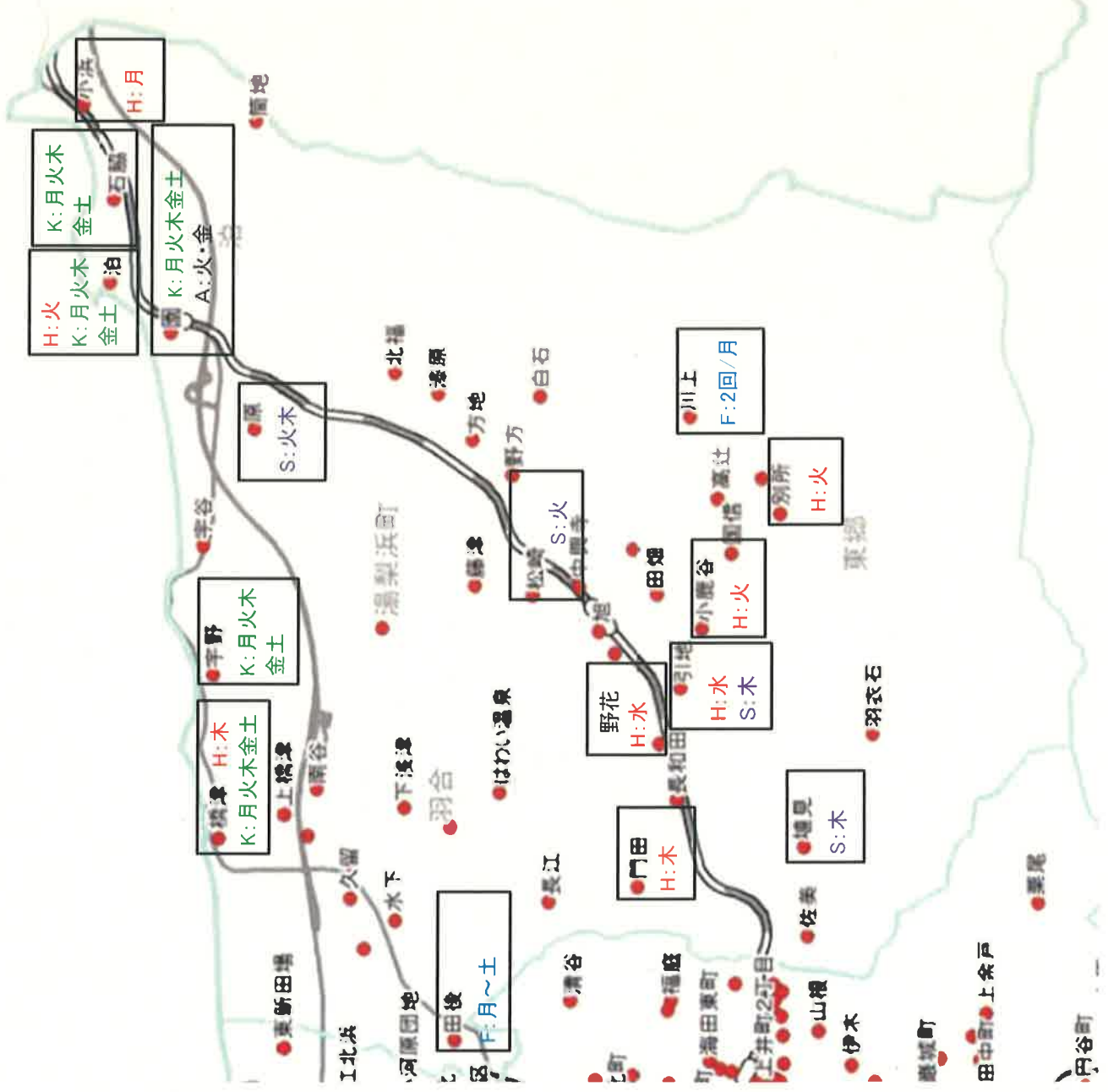


平成17、27年国勢調査より

泊地域小さな拠点住民説明会結果概要

地区	住む場所・人の確保	買い物	拠点の場所
小浜	特に意見なし	移動販売：1名	候補2が多数 ・候補1は津波が心配、候補3は移動時間がかかる
筒地	石脇～筒地の造成地活用の意見あり	移動販売：1名 ・生協の活用実績あり	候補2が多数 ・候補1は津波が心配、候補3は坂が気になる
石脇	一里浜線周辺、原区丘陵地の意見あり	特に希望意見なし	候補1が多数 ・津波を考えると候補2、3
泊1	場所についての意見なし ・小さな分譲地でよい	移動販売が多数 ・店舗：1名	候補1：8名 候補2：3名
泊2	インターチェンジ、JA付近の意見あり ・原区有地	移動販売が多数 ・店舗：1名	候補1、2、3：各1名 ・造成地と拠点を同時進行 ・候補3は上がれない
泊3・4	インターチェンジ、JA付近の意見あり	店舗が多数 ・移動販売も意見あり	特に希望意見なし
泊5	場所についての意見なし ・空き家解体への支援	店舗：1名 移動販売：1名	候補1が多数
泊6	空き家活用が多数 ・青少年の家横の山を平地にして団地にしてはどうか	店舗：2名 移動販売：1名	特に希望意見なし ・候補2、3は遠い
港	場所についての意見なし ・造成地には、賛成	店舗が多数	候補1が多数
園	一里浜線周辺の意見あり	移動販売が多数 ・生協の活用実績あり	候補1：1名 ・候補2、3は遠い
浜山	場所についての意見なし ・造成地には、賛成	特に希望意見なし ・生協の活用実績あり	候補1が多数 ・候補2：1名 ・候補2、3は遠い
原	インターチェンジ付近の意見あり	移送サービスが多数 ・店舗、移動販売もよい	インターチェンジ付近
宇谷	場所についての意見なし ・空き家活用	移動販売が多数 ・移送サービスもよい	候補1：1名

# 湯梨浜町内での移動販売状況



(H)

曜日等	場所	備考
月	小浜	
火	小鹿谷	
	泊社協(泊)	
	別所	
水	引地	
	サンレオン東郷(野花)	
	ガーデンハウス野花	
木	橋津	
	東郷電機(門田)	

(S)

曜日等	場所	備考
火・木	原	
火	松崎	
木	引地	
	埴見	

(K)

曜日等	場所	備考
水・日以外	橋津	魚・佃煮・惣菜
	宇野	
	園	
	泊	
	石脇	

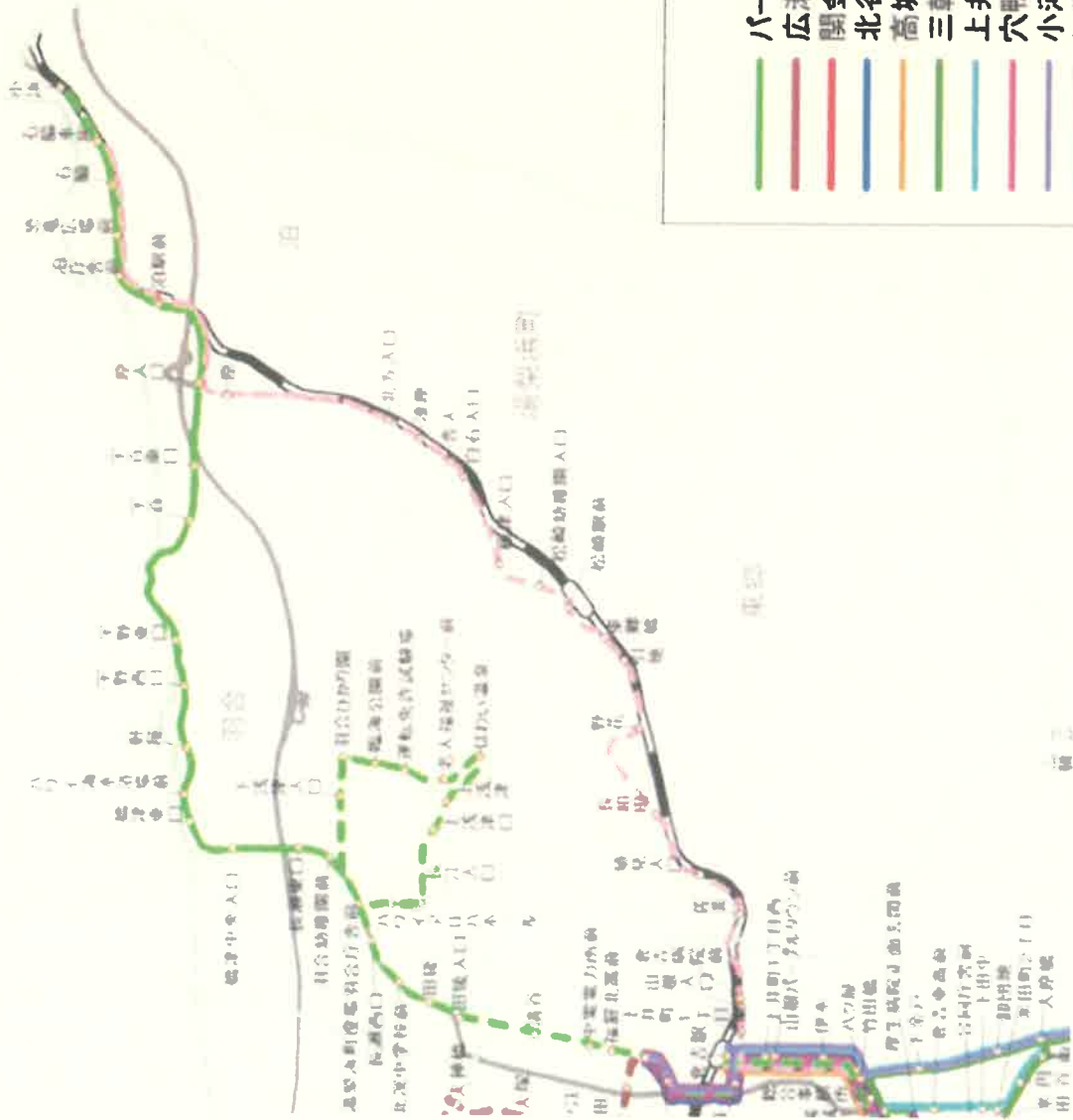
(F)

曜日等	場所	備考
月に	川上	
2回		
日以外	田後	

(A)不明(赤崎から)

曜日等	場所	備考
火・金	園	野菜・果物

# バス路線とバス停名称



運行状況

パークスクエア線	米線
広瀬線	赤碓線
関金線	北条線
北谷線	橋津線
高城線	松崎・北方線
三朝線	船上山線
上井～三朝線	琴浦海岸線
穴鴨線	上中村線
小河内線	東伯線
社線	北栄町乗合タクシー
市内線	

【資料】鳥取県中部地域公共交通協議会調査結果(平成22年9月実施)を加工

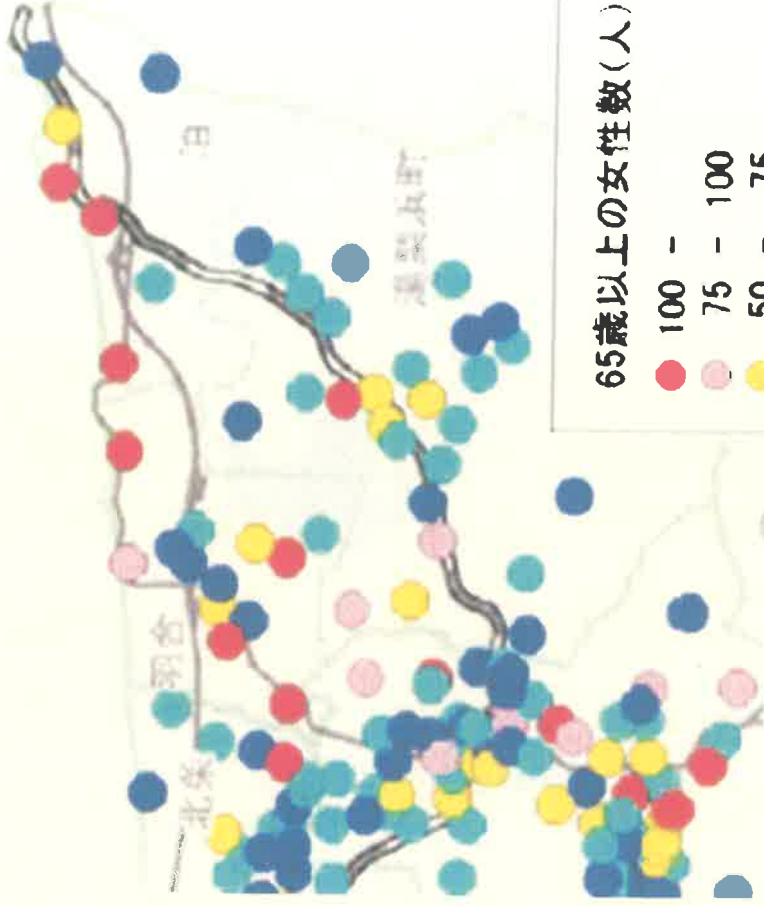
集落から最寄バス停までの距離



バス停までの距離 (km)

- 2
- 1
- 0.5
- 0.2
- 0

65歳以上の女性数(免許非保有率の高い層)



65歳以上の女性数(人)

- 100
- 75
- 50
- 25
- 0

路線名	系統	系統キロ数 (km)	1日当り平均運行回数 (往復)	1日当り所要走行キロ (km)	運送収入 (千円)	平均乗車人数 (人/車)	乗客密度 (人/車)	1日当り乗客数 (人/日)	年間乗客数 (人/年)	経常収益 (千円/年)	経常費用 (千円/年)	経常文換 (千円/年)	収支比率 (%)	1人当り運行経費 (円/人)	補助金負担率合計 (千円/年)	湯梨浜町 (千円/年)
横 糸	西条吉町～湯梨浜～長瀬西口～石段草津	21.7	9.0	132,500.2	14,024	105.8	24	240.7	87,844	22,217	30,890	8,672	71.9%	99	8,672	920
	西条吉町～羽合温泉～免許試験場～石段草津	28.1	7.0	137,884.0	14,591	105.8	29	250.4	91,380	16,094	32,530	16,437	49.5%	160	16,437	2,490
松 崎	西条吉町～湯梨浜～湯梨浜～松崎～北方入口	15.4	6.5	70,947.8	6,295	88.7	18	97.8	35,642	9,828	16,795	7,168	57.3%	201	7,167	914
	北方入口～石段草津	5.2	0.5	1,263.6	112	88.6	13	1.7	635	107	298	191	36.0%	300	191	191
石段草津～松崎～湯梨浜	20.6	0.5	6,035.8	536	88.8	20	8.0	3,032	944	1,449	505	65.2%	166	504	310	

【資料】鳥取県中部地域公共交通協議会調査結果(平成22年9月実施)を加工